小金井市男女共同参画情報誌

かたらい

51号
2020 春

特別企画 p6～

小金井市名誉市民 毛里和子さんインタビュー

早稲田大学栄誉フェロー、名誉教授
華東師範大学顧問教授、文化功労者

特 集 p2～

「子どもの視点から男女共同参画を考えてみよう」

目 次

p2 特集 「子どもの視点から男女共同参画を考えてみよう」
① ＮＰＯ法人こがねい子ども遊パーク 邦永 洋子さんインタビュー
② プレーパークで聞いてみました
③ 寄稿「子どもの視点からみる男女共同参画」
ＮＰＯ法人東京学芸大こども未来研究所 安部 陽子さん
p6 特別企画 「小金井市名誉市民 毛里和子さんインタビュー」
早稲田大学栄誉フェロー、名誉教授、
華東師範大学顧問教授、文化功労者 毛里 和子さん
p9 国際比較 コラム「中国における女性の活躍」
早稲田大学教育・総合科学学術院教授 新保 敦子さん
p10 令和元年度 男女共同参画シンポジウム
映像の中の女性たち
p11 第３３回こがねいパレット
It's 笑 タイム!! 笑いで吹き飛ばせ 暮らしのモヤモヤ

特集 「子どもの視点から男女共同参画を考えてみよう」

子どもの視点から男女共同参画は考えられているのか。子ども目線の男女共同参画とは何か。そんな疑問から今回のテーマを企画しました。

「子どもが自由な発想で自由に遊べる」冒険遊び場“プレーパーク”（注１）を開催しているＮＰＯ法人こがねい子ども遊パーク代表理事の邦永洋子さんへのインタビューと、プレーパークに来ていた保護者の方に話を伺いました。

特集をとおして、子どもの視点から男女共同参画を考えるきっかけになればと思います。

ＮＰＯ法人こがねい子ども遊パーク

代表理事・邦永 洋子さん

1．プレーパークの立ち上げ

「ＮＰＯこがねい子ども遊パーク」は、前身である「（仮称）小金井にプレーパークをつくる会」から発展しました。どのような子ども時代を送ってもらいたいかを考える５人の親が話し合い、１年間模索しました。初めてのプレーパークは、平成15年に公民館の講座の中で、浴恩館公園で一日プレーパークを実践し、６００～７００人くらい集まりました。

その後、拠点を武蔵野公園に移し、１か月に１回程度開催していましたが、都や市などから助成を受け、すぐ毎週開催することとなりました。平成27年から常設で、週４日、東京学芸大学（以下、「学芸大」という。）構内で、週１回、都立武蔵野公園のクジラ山で開催しています。

2．小金井市のプレーパークとは

開催時間は午前10時から午後５時までで、好きな時間に自由に来ることができます。遊ぶ内容は様々で、子どもの遊びを支援するプレーリーダー（注２）も常駐し、木登りや水遊び、火をおこすことを含めた火遊び、ナイフやのこぎりを使うなど、いつもは危ないと禁止される遊びもできます。子どもたちは自分の好きな遊びをすることができ、男の子も女の子も一緒になって遊んでいます。

子どもには、昔の暮らしや遊びの体験はとても重要です。小金井市のプレーパークでは、立ち上げ当初から日本で伝統的に行われてきた農業・農家の暮らしや遊びを取り入れてきました。また、学芸大や武蔵野公園には自然物がたくさん落ちているので、子どもの好奇心はつきません。

午前中は乳幼児とその保護者が多く、保育園の子どもたちも遊びに来ます。午後には幼稚園児や小学生、さらには中学生や高校生も遊びに来ています。天候によって遊びにくる子どもの人数は異なりますが、多い時で１００人程になることもあります。また、プレーパークは子どもだけでなく、親と子どもが一緒に遊んだり、親同士のコミュニケーションの場にもなっています。

育児をしている親には、周りと繋がることのできる環境が必要であり、プレーパークは親同士の繋がりを持てる場、親の居場所にもなっています。

3．子どもたちに男女の差はみられるか

遊びの中で、男の子、女の子という決まりごとはなく、「男だから、女だから」という言葉もあまり聞きません。

男の子もおままごとは好きだし、女の子ものこぎりを使います。それぞれやりたいことをやっているので、男女の差というより、個性の違いだと感じます。遊びの傾向はありますが、それも必ずというわけではないようです。

4. 親の役割

習い事をたくさんしている子どももいますが、何かやらせていないと不安だったり、周りに同調していないと不安だというところもあるのではないでしょうか。親が、最初からうまくいくことばかりを考えてしまったり、勝手に線引きをしないほうがいいと思います。

大切なのは、子どもの話に耳を傾けることです。答えをあげる必要はない。友達とうまくいかなくなった時や悩みがあるときに、聞いてくれる相手がいれば、いやな気持ちや悲しい気持ちを解消する引き出しを開けてあげられると思います。

5. 子どもの力

子どもには力があります。小さくてもやりたいことはしっかりと持っていて、親はこれを支持することが大事です。子どもも、子ども同士で話し合い、自分たちで物事を決めていくことができます。大人からは向こうに行ってなさいと言われることもありますが、子どもの自治が認められるプレーパークの中では、子どもたちがどんどん変わっていく姿を見ることができます。それを見守っていくことが大事だと思っています。

そして、子どもの持つ力を育てていくためには、小さい頃からたくさん遊ばせることです。子どもは遊びの中から、人との関わり方や自分とは違った気持や好みを持つ人がいることを学ぶと同時に、自分の力で考え実行する自主性や意欲も育くんでいきます。

プレーパークの役割は、子どものやりたい気持ちをしぼませないことが大事だと思っています。生まれた時から子どもには①「大人のまねっこ→社会性」、②「自主性」があると思っていますが、どちらかというと②は大人には迷惑で、赤ちゃんの時から、やめなさいと言われがちです。①だけをやっていると、②がどんどん少なくなっていってしまいます。遊びは、子どもにとって生きることと同じで、とても大事なことなのです。

親は失敗させまいと考えますが、子どもは失敗が糧になります。結局子どもは、不便な方が伸びるのです。面倒くさいこと、これが子育てには実は大事だと思います。プレーパークに来ている子どもたちは、比較的誰とでも友達になれるし、異なる年齢の子どもたちとも付き合うことができます。よく小さい子の親からここの子どもは優しいと言われます。異年齢で遊ぶ経験から、自分より小さい子に対して優しく接することができるようになっているのだと思います。多様な人と関わることが人権意識を育てますね。

※記事の中では「プレーパーク」の標記に統一しています。
注1：プレーパーク（冒険遊び場）：子どもが自由に遊べる野外広場
注2：プレーリーダー：子どもたちがいきいきと遊べるよう、そのための環境を作る人。

■小金井市のプレーパーク（冒険遊び場）事業：子どもが自由な発想で自由に遊びながら、「自然とのふれあい」や「様々な年代との交流」を体験することにより、子どもたちの感性や生き方を磨くこと、地域に安心して遊べる環境を作ることを目的としている。取材日現在、小金井市の委託を受け、NPO法人こがねい子ども遊パークが開催している。
「いけとおがわプレーパーク」
東京学芸大学　週4日（火～木、土）
「くじら山プレーパーク」
都立武蔵野公園　週1回（金）

取材を終えて

男女平等の意識を無意識のうちに持つことが、子どもだけでなく大人も持たないといけない時代に来ていると思います。現在の若い親の世代はそれが当たり前になってきているようで、これは喜ばしいことです。親の男女共同参画の意識なくしては、子どもの男女平等意識は育ちません。

今後、どのような状態が続くか、見てみたいと思います。

（佐藤）

遊びに来ていた保護者の方　プレーパークで聞いてみました

12月のとある日、「いけとおがわプレーパーク」（東京学芸大学内）を訪れました。取材当日は気温も低く、小雨がパラつく天気でしたが、多くのお子さんと保護者が思い思いに時間を過ごしていました。遊びに来ていた保護者の方やプレーリーダーに、子育てやプレーパークについて話を伺いました。

祖父・男の子（2歳）

ここは、走り回ったり、いろんな物に触れられるので、遊ばせるのにちょうどいいです。孫の両親は、共にフルタイムで働いていますが、子どもを保育園に預けられなかったので、私とここで遊ぶことが日課となっています。毎日通ううちに孫もプレーパークに慣れ、ここで遊べる時間も少しずつ長くなってきました。

お母さん・女の子（来年度から幼稚園）

家にいると、やらなければいけない家事が気になって、子どもとちゃんと遊んであげられません。だけど、ここに来ると子との外遊びに集中できます。家にない遊び道具をここで試せるのがいいですね。与えるにはまだ早いかなと思うようなものでもここで試しに遊ばせてみて、ちゃんと使えていれば家でも買おうかなと思ったりします。

お母さん・男の子2人（小学生、幼稚園児）

プレーパークに通い出してからもう5年ほどになりますが、小学生の子どもは現在ホームスクーリング（注）で教育を受けており、週3～4回はここに通っています。土日はお父さんも子どもたちと遊んでくれますが、平日は私一人で子どもたちを見ないといけません。ここに来ると、プレーリーダーの方が子どもと一緒に遊んでくれたり、知り合いに会って話もできるので、子どもと少し距離が取れて心の余裕が生まれます。

火遊びや水遊びなど、ここでは自由に何でも出来るので、子どもも気に入っています。大学生など、年上の人たちに遊んでもらうのも好きなようです。　**（注：ホームスクーリング：学校に通学せず、家庭に拠点を置いて学習を行うこと。）**

プレーリーダー

ここに来る人は、子どもだけでなく大人もみんな変わっていきます。当初、子どもをどうやって遊ばせていいか分からなかったお母さんたちも、子どもと共に遊び、子どもの変化を見守る中で、これまで見過ごしていた様々なことに気づいていきます。

私がプレーリーダーになる前、自分の子どもが2～3歳の頃からずっとプレーパークを利用していました。夫は長く単身赴任をしていたので子育てに協力できませんでした。そんな中で、プレーリーダーや他の保護者の方、大学生の方などと関わることができるプレーパークは、親子にとってとても大事な場所となりました。

（40代）

以前は学童保育所で働いていました。学童保育では遊べるスペースが限られていて、子ども同士がぶつかり、喧嘩になることもありましたが、ここは広く、のびのびと遊べ、子どものメンバーも固定されていないので、新鮮な遊びが出来るようです。

（20代）

子どもたちはここに慣れてくると、いる時間も長くなってきます。やりたいことには自分から手が出て、チャレンジしてはクリアするようになってきますね。大学の学生さんも来てくれるので異年齢の子同士で遊ぶことができ、縦のつながりもあります。また、土曜日にはお父さんが子どもたちを連れて来ることも多く、子どもと遊び慣れているお父さんが多いです。

（50代）

取材を終えて

取材中には焚火を囲む一場面もあり、自由でオープンな雰囲気に心が和みました。子育てしやすい社会を作っていくためには、働き方の見直しなどを社会で議論していくとともに、プレーパークのような地域に根差した活動を皆で支えていくことが重要だと思いました。（須賀）

子どもの視点からみる男女共同参画

寄稿

安部　陽子（NPO法人東京学芸大こども未来研究所　専門研究員）

岡山県の子ども向け遊園地で働いた後、NPO法人東京学芸大こども未来研究所に所属。5年間のプロジェクトで「東京学芸大学放課後児童クラブ」の運営に携わっている。大学・大学院で「子どもの遊び」、「子どもの放課後の過ごし方」について学ぶことで興味をもつ。

現在は放課後児童クラブで対話を意識することで、目の前の人の本音に触れたり、人間関係が変わったりすることを知り、日々子どもとの対話を楽しく実践中。

私は今、東京学芸大学の中で放課後児童クラブをしています。

ある1年生の児童の3学期の（クラブでの）目標は…「マンガを読めるようにする！」パッと見たときは、どういうことだろう？　マンガを読みたかったら読んでもいいしな…？　マンガじゃない本もたくさん読んでほしいなぁ…。そんな気持ちを抱えながらその子と話をしました。

私　マンガを読みたいの？
児童　うん
私　いつ読みたいの？
児童　集中タイム（いわゆる勉強の時間）
私　他の勉強はしないの？
児童　するよ。早く、やることをやってマンガを読むの。

そこまで聞いた私は、なるほど！と思いました。この子の中では、集中タイムの20分間でやるべきことが終わったらマンガを読んでいいというルールのようで、早くマンガにたどり着けるように頑張りたい、ということだったのです。

私　それじゃあ、〝準備を早くしてやるべきことをしっかりやって〟という言葉を付け加えておこうか。
児童　わかった！

私たちの放課後児童クラブでは、こんなやりとりが日常茶飯事。「どうして？」「それってどういう意味かな？」そんな言葉が常に飛び交っています。子どもが発してくる言葉や文字をまるっとそのまま受け取るわけではありません。大人が思っている意味で本当に使っているかな？この子にとってこの言葉ってどういう意味かな？そんなことを常に考えて、その疑問をそのままにせずにきちんと相手に確認します。そうすると、前述のように子どもの本当の想いが発掘されていきます。私たちは子どもとの「対話」を大切にしていて、丁寧に観察し、丁寧に対話することを心がけています。

このことは、大人とのコミュニケーションでも一緒だと思っていて、対大人の場合も同じように丁寧に対話することを心がけています。「それってどういう意味かな？」「私にとっては〇〇な意味だけど、相手にとっても本当にそうだろうか？」と、よく考えます。対話をすることは、とても時間がかかり根気や慣れが必要です。しかし、とても楽しいことです。相手から思ってもみなかった想いが出てきたり、思いもよらない視点で話をしてくれたり…。自分の価値観が変わり、広がっていきます。

5年ぽど対話を意識して続けてきた私は、自分の中でも変化を感じています。一つは、会話をすることが怖くなくなったことです。以前は、自分から話すことが苦手だったり、会話中にどうしてなんだろう？さっきの意味がよくわからないな、という時に相手に質問をすることができませんでした。しかし、相手は自分と違うから、わからないことがあれば、訊いたらいいとわかり、それを質問することでお互いの理解が深まり、より親密になっていくということが体験的にわかるようになりました。そうすると、人と会話をすることが楽しくなり、自分から話をしなくても話してくれたことについて質問をする、ということで話題が広がり深まることが増えていきました。

二つ目は、家庭生活に活きているということです。私は、2歳の子どもを育てながら放課後児童クラブで働いていますが、なんとかやってこられているのは、夫の手助けがあるからです。帰宅がどうしても遅くなってしまうので、子どものお迎えから寝かしつけまでが夫の仕事になっています。家の中のことも色々してくれるのですが、気が付いた時には一日遅れても「洗い物、ありがとう。」わかっているだろうと思いながらも「今日は、ごみ捨ててきてもらえるかな？」などと意識をして声をかけるようにしています。そうすることで、お互い気持ちよく過ごせています。

同様のことは2歳の子どもにも意識するようにしています。2歳だったとしても一人の人間。自分のやりたいことも考えていることもあります。まずは、子どもがどんなふうに考えているのかをできる限り想いを引き出し、言葉にしてあげたり確認したりします。（もちろん、違っている時もあります！）

私たちは、目の前の人が自分と違う目を持っていて、違う感情があるということを忘れがちです。しかし、少し立ち止まって「あれ？この言葉、この子はどういう意味で使っているんだろう。」「さっき、お礼を伝えてないからありがとう、って伝えよう。」などと考える時間が増えることで、目の前の人のことがよくわかり、信頼関係が深まります。年齢や男女に関係なく、お互いを理解していくことができ、よりよい関係を続けていけるようになると考えています。まずは、「どういう意味？」「どういう気持ち？」そんな言葉を近くの人に優しく投げかけてみると面白いことが起こるかもしれません。

特別企画

小金井市名誉市民 毛里和子（もうりかずこ）さんインタビュー

早稲田大学栄誉フェロー、名誉教授
華東師範大学顧問教授、文化功労者
現代中国政治研究の第一人者として、現在も第一線で活躍している。

編集（以下、編）：どうして中国研究の道に入られたのですか？

私の青春時代は1950年代末から60年代初めの、とても面白い激動の時代でした。本当は私、弁護士になりたかったんです。けれど、大学進学時に法学部に進むことを、父に大反対されました。父は考えの古い人で、女性だから家政科に進んで欲しかったのです。私は家政科に全く興味がなかったので、絶対に嫌で、とても抵抗しました。結局は、高校の世界史の先生がとても魅力的で教え方の上手な方で、歴史にも興味を持っていたことから、史学科で東洋史を専攻し、大学1年から中国現代史を始めました。父も、文学部系なら許せる範囲だったのでしょうね。

当時の中国は、戦前の植民地支配から抜け出して、1949年に共産党国家を建国したばかり。新生中国で、希望に燃えていたのでしょう。50年代の世界は混乱しているのだけど、世界のそれぞれが希望に燃えていました。中国は、日本人の我々が思うような普通とは、違う社会を作ろうとしているという、積極的に評価する気持ちがありました。そして、私も若かったですから、知らないものへの憧れがあったし、知的好奇心も刺激されました。中国もソ連などの社会主義国も、資本主義よりも進んだ未来の社会を生きているのだと思っていました。結果的には大失敗でしたけどね。後から気付いてもしょうがない、私には中国研究以外にやれることもないから。というわけで、この国に捉われて、それ以来、半世紀以上研究してきたわけです。

編：毛里さんが大学で学部生として学ばれていた頃は、中国では大躍進運動（注1）の時期ですね。

まさにそうです。当時は日中間に国交もなく、自由に行くことも出来ませんでした。行けるのは、限られた政治家や、日中友好団体で中国共産党にコネクションがあるような極々少数の人だけで、現地で中国に都合のいい部分だけを見せられて、宣伝的に使われるのです。情報も、いいことしか出ない。我々は、その情報を信じるしかなかったのです。今も悪い情報は出ませんけどね。悪いことは、知らしむべからずと思っているのでしょうか。

大躍進政策では、飢餓で大勢の人が亡くなりました。3000万人近くも亡くなったと報道されることも多いのですけれど、それを90年代に入ってから中国の当代中国研究所という機関で言いましたら、「そういうのは中国の学界では認められていません。」と言われました。

編：なんという国を研究対象に選んでしまったのだろう、と思われることもあるのでしょうか。

当時は、いい情報しか流れてきませんし、いいことを研究しているのだと思っていました。ガラッと変わったのは、文化大革命の真っ最中に起きた、71年の林彪（りんぴょう）事件ですね。毛沢東が、後継者のナンバーワンとして正式に選んだ林彪が、2年後にクーデターを起こして毛沢東を殺そうとしたというのです。事前に露見したことを察知した林彪が、飛行機でソ連に逃げようとしたら、モンゴル上空で飛行機が墜落して亡くなった事件です。そうしたことが、報道されないんですよ。公式報道が出るのが、1年くらい経ってから。イギリスの新聞がすっぱ抜いて、大変な

ことが起こったらしいことは分かりました。それを聞いたとき、私はもうびっくりして、「何をやっているのだろう。」と思いました。その時に、私たちが考えていた中国は、現実とは全く違う、ただただ作り上げられたイメージに過ぎないと知り、共産党の宣伝をそのまま信じているのでは、中国研究はできないと、反省しました。

多くの現代中国学者は、こういう転換を味わっていますね。私より若い世代だと、89年の天安門事件です(注2)。80年代に中国研究に入った人々は、中国は民主化できるのではないかと期待をしていました。中国にとって本当に民主化がいいのかどうかは、また難しい問題として、民主化を期待し信じていたし、現実的なシナリオとして考えていました。中国も、「改革」「民主主義」「民主化」と、口先で言い続けていましたからね。我々が60年代にプロパガンダにやられたのと同じような構図ができていました。その後は、05年の反日デモ、12年の尖閣諸島問題が、対中イメージの転換になるような事件でしょうね。

編：それでも、現代中国研究では第一線でご活躍されてきましたが、女性研究者として、社会の壁を感じられたことはありますか？

本当に大きなショックが1回ありました。大学院修士課程を修了して、研究所に就職して何年か経って、大学で研究したいと思ったんです。大学での研究職を探すには、指導教官の推薦状が必要でした。私の指導教官は、当時はある女子大学の学長でしたから、女子教育について一家言あるだろうと思っていたんですけど、「駄目だよ、女性は東大じゃなきゃ就職はできない」と言われまして、愕然としました。結局は推薦して下さったのですが、やはり決まりませんでしたね。本来、教育者は、思っていたって本音を言っちゃいけない仕事なんですけど、その学長は

とてもいい先生で、現実を言って下さる本音の方でした。このとき以外では、いい仲間、いい友人、理解ある夫や家族に恵まれて、助けられてきて、女性による不利益をほとんど感じずに来られました。

日本国際問題研究所の研究員だったころ、研究所だから研究者を集めて研究会を作るんです。私が幹事になって、例えば、「林彪事件がなぜ起こったのかを学問的にやりましょう」と言って、1～2年の研究プロジェクトを立ち上げて、研究がうまくまとまれば本を出版します。その研究会のメンバーが10人だと、いつも女性は私1人だけで、20人いても1～2人。どこへ行っても大概は1人。それが普通で、何とも思わなくなっていました。

女性参加が遅れているのは、政界とメディアについて強く感じます。05年に中国で大規模な反日デモが起きたときに、日本新聞協会が外信部のトップ向けに、日中関係の勉強会を開きまして、講師として呼ばれたんですが、行ったら部屋が真っ黒なんですよ。黒いスーツを着た男性だけしかいないんです。メディアこそ、女性の視点も伝えてくれなければ困るのに、「どうして女性がいないんだろう？」と、その時には思いました。一般企業でも、学者の世界でも、管理職や教授の地位にいる女性は非常に少ないですが、3割くらいまで増えれば、女性の声が強まって、社会が大きく変わってくるように思います。

中国浙江大学での国際シンポジウム
（東北アジアの協力）

編：中国では、女性の管理職の比率はどうでしょうか？

正確なデータがありませんから、何とも言えません。ただ、中国ではジェンダーは、問題としてあまり取り上げられませんね。中国では、92年に婦女権益保障法というのが施行されて、05年に改正もされています

が、内容は婚姻に関する女性の権利や、教育の権利などの、家庭や個人に関わることがほとんどで、例えば企業の管理職比率の目標値などの社会的な内容はありませんし、LGBTが問題として提起されることもないですね。LGBTの人はいますけど、私が知る限りでは問題として提起されていません。

私は、ジェンダーの問題は男性が問題意識を持って研究すればいいと思っています。女性がジェンダーをやると、「夫からはどのようなサポートがあるのか」「家事の分担は」という、非常にプライベートな問題になるんです。その点、上野千鶴子さんの言う「おひとりさま」は、自然体で好きです。女性が独り身でいても当たり前で、なんの不利益も被らない社会というのが。

男女雇用均等法が施行されたときに、女性の働く権利と言いながら、その基本的な精神は、意地悪な言い方をすれば「男並みに女が働け。それじゃないと社会は認めないよ、そんな甘いもんじゃないよ」ということですよね。本来、働き方は、みんなが考えなくちゃいけない。女性が働きやすい社会を普通の社会として考える、発想の転換が非常に必要です。どういう風にしたら健全に健康に、両性が暮らしていけるのか、ということです。

企業はほんの少し前進していますが、政治家は全然ですね。国際的に恥ずかしいです。

編：女性が研究者として生きていくことは、まだまだ厳しいですが、研究者を目指す女性にアドバイスをお願いします。

文部科学省の下にある学術振興会で、私は、優秀な研究成果をあげた研究者を表彰する学術振興会賞の審査委員をしているんです。大体毎年25人の受賞者がいて、研究奨励金が支給されるのですが、女性が3人くらいしかいないんです。先日、審査委員会で意見を求められたので、「優秀な女性研究者はいっぱいいるのに、3人しか受賞者がいないのは、問題ではないか。これからの日本の研究を支えるという意味で、女性のクオータ制（注3）を作るなどを考えた方がいいのではないか」と提言しました。

女性は、妊娠出産をすれば、5年は研究に集中できる状況ではなくなる。だから私はひそかに、女性は、同世代の男性より5年遅れると思っています。その5年は、現場を離れた今にしかできないことを自分に蓄えて、5年後には必ず戻ってきて下さい。しつこさ、執念、長期的展望が大事です。長い将来を見ると必ず5年後には追い付けるし、必ず報われる。ただし、日本社会がもう少し変わらないと、女性も男性も大変だと思います。中国研究も最近は少々元気がなく、少子化も進んでいますから、大学のポスト全体が減っています。そういうことであれば、大学以外の研究機関や専門の研究機関を作って、基礎的で長期的な研究ができるような、専任の研究員を採用すべきだし、そういう意見を出しています。

北京大学政府管理学院講演の様子

注1：1958～61年に、毛沢東が主導した農工業の大増産政策。経済学も現実も無視した実現不可能な目標により、農村経済を混乱させ、農業生産が麻痺した結果、多くの餓死者を生み、失敗に終わった。

注2：第2次天安門事件。中国共産党内部の改革派と保守派の権力闘争に、民主化を求める学生運動が合体した。鄧小平が保守派を支持し、改革派の趙紫陽総書記は失脚。学生と市民による泊まり込みのデモは、人民解放軍により、6月4日未明に流血を伴って武力制圧されたことから、六四事件ともいう。

注3：性別を基準に一定の人数や比率を割り当てる手法

取材を終えて

「私は、ジェンダーはやらないって決めてるの」とキッパリおっしゃった毛里さんですが、実際には研究界の第一人者の場所から、後進の女性研究者に力強く道を拓いていました。女性がジェンダーを語る難しさを知る慧眼と、語らずとも動く行動力こそが、国際的に評価の高い研究実績を生んできたのだと感じました。（田中）

国際比較 コラム

中国における女性の活躍

早稲田大学教育・総合科学学術院教授
早稲田大学現代中国研究所　研究所員
新保（しんぼ） 敦子（あつこ）さん

日本では、戦後、高度経済成長の中で、夫はサラリーマンとして外で仕事、妻は家で家事・育児という性別役割分業が定着した。現在でも、こうした性別役割分業観は根強いものがある。

一方、中国ではどうだろうか。もともと、1949年の中華人民共和国建国以降、女性労働力の必要性から、女性は天の半分を支える人（「半辺天」）として期待され、都市部において共働きは一般的な現象であった。そのため男性が家事をするのも、ごく普通であった。

筆者は、10年にわたる文化大革命が集結し、改革開放政策が採られて間もない1981年から1983年にかけて、中国の北京師範大学に留学していた。その当時、北京師範大学では、S先生（女性）に大変にお世話になった。S先生の一家は、夫のL先生と、お二人のお嬢さんの4人家族で、北京師範大学の構内に居住されておられた。

S先生のご自宅に訪問し、食事をご馳走になる機会が少なからずあった。その場合でも、台所に立ち、料理を作ってくださるのは夫のL先生であった。L先生の方がお料理は上手ということからである。そして手際良く、瞬く間に5、6品がテーブルに並ぶのには驚かされた。S先生家以外にも、夫が料理をする家庭は少なくなかった、という印象を持っている。

ただ、中国人の男性と話をしていると、「日本人の妻をめとり、中華料理を食べ、アメリカの家に住むのが理想」と冗談交じりに言われることも多かった。これは、日本人女性である私に対するお世辞ということがあったのかもしれない。しかし、日常生活の中で、夫が家事負担をしているものの、やはりどこかで夫に従順な日本の女性と結婚し、家では何もしたくないというのが本音だったのかとも思われる。

映画の影響か、「日本人は、妻が玄関で三つ指をついて夫の送り迎えをしていて、本当に羨ましい」と男性から何度も言われたこともあった。

また、筆者が北京師範大学に留学していた時期は、日本のテレビドラマや映画が熱狂的に歓迎されていた。文化大革命の抑圧から解放されて娯楽を求めていた時に、日本のテレビドラマや映画が続々と受け入れられていたのである。とりわけ、三浦友和と山口百恵の赤のシリーズ（『赤い衝撃』など）が大人気であった。

そのため、超有名な大スターである山口百恵が結婚とともに引退したことが、中国人には信じられないことであった。たびたび、中国人との会話の中で、「なぜ人気の絶頂で、結婚に伴い引退するのか」と聞かれた。そのたびごとに、日本では、結婚とともに、仕事を辞める女性が多いことを説明していた。

このように、中国都市部では、一般的に女性も働く共働き家庭が多かったと言えよう。しかし、近年の経済成長の中で、男性が外で働き、女性が家庭を支えるというケースも増えつつある。特に30代から40代の専業主婦層が、夫側の給与水準の向上に伴い、新たに出現していることは注目できる。こうした専業主婦層が子どもの教育を担当し、そのお稽古事や課外の補習授業に熱心につきそう例も少なくない。

このように専業主婦層の増加が言われているが、それでも、2018年、就業者全体に占める女性の割合は4割を超えている。ただし、日本のように保育園が整備されているわけではない。そのため共働きで子どもがいる場合、祖父母が子どもの面倒を見るのが一般的である。祖父母にとっても、孫の世話は、生き甲斐であり、新たな役割を喜んで引き受けている。

ところで、世界経済フォーラム（WEF）の2020年版「ジェンダー・ギャップ・レポート」で、日本は153カ国中121位だった。女性閣僚や議員が少なく女性の政治参加が進んでいないこと、男女の賃金格差、さらに女性の管理職比率が低いことが原因である。一方、中国は106位で、女性の政治参加が課題である。しかしながら、第13期全人代（日本の衆議院に相当）の女性代表数は742人（全体の約25％）となり、過去最高となった。政治の世界でも女性が活躍しつつある。

また、中国では近年、高等教育が急成長し、高等教育の就学率は2018年に48.1％に急上昇し、世界の中の上レベルとなった。とりわけ女性の躍進が著しい。たとえば2018年、高等教育課程に在籍する学生のうち、修士・博士課程に在籍する女性は135万6000人（全体の49.6％）、大学の4年制課程に在籍する女性は1487万4000人（52.5％）である（2019年12月13日　新華社）。

高等教育機関で教職員として働く女性も多く、女性教授も少なくない。大学の専任教員に占める女性の割合は、約5割という高い数値である。ちなみに、筆者の所属する早稲田大学では、女性の教員は近年増加の傾向にあるものの、それでも約15％に留まっている。それを中国人の研究者仲間に言うと、それほどまでに低いのかと驚かれる。

女性の地位は、男性に比べてまだまだ対等とは言えないものの、「中国女性発展要綱（2011～20年）」といった行動計画を策定し、女性の地位向上に向けて着実に努力が為されている。日本として中国に学ぶ点は多いといえよう。

令和元年度 男女共同参画シンポジウム

映像の中の女性たち

～ディズニーアニメのヒロイン像はどう変わったか～

講師：国広陽子
（武蔵大学名誉教授　元東京女子大学教授）

令和元年9月1日に市民会館萌え木ホールにて男女共同参画シンポジウムを開催いたしました。

メディアリテラシーの視点から、ディズニーアニメーションの中で描かれたヒロインがどのように変わっていったかをお話いただきました。

1. メディアと男女共同参画

メディアリテラシーとは、「メディアの意味と特性を理解したうえで、情報を読み解き、情報を表現・発信するとともに、メディアの在り方を考え、行動していくことができる能力」とされる。現代の我々は、メディアからの情報が現実認識の基盤、すなわち様々な現状認識、価値意識など人々の「常識」の基盤を提供している。メディアは特定の考え方を現代文化の中に浸透させ、強化する文化装置であり、番組や作品の中では警戒心を解く「自然さ」で表現されている。

メディア作品には、隠されたジェンダーに関する価値観が含まれており、それを見出して分析し、議論することが必要となってくる。メディア作品の内容には、文化の中に埋め込まれた一定の考えを形成、反映、強化する面があるからだ。第4回世界女性会議行動綱領（1995年）には、戦略目標として、①メディア及び新たな通信技術における、またそれらを通じた表現及び意思決定への女性の参画とアクセスを高めること、②メディアにおけるバランスが取れ、固定観念にとらわれない女性の描写を促進すること、とされている。

2. メディアに見る女性の描き方

メディア作品に接する際、どのような点に注目したらよいか。一つはメディア組織のジェンダー構造、誰が作り手かを見る。次に描きだしている男女観や人生観、そして歴史的背景、時代状況をどのように反映しているかを見ていく。例えば主婦向けの雑誌の表紙に描かれた女性像を見れば、社会状況の変化に伴って変容してきたとわかる。

ディズニーアニメが描いたプリンセス像を読み解いていくと、白雪姫からシンデレラ、オーロラ姫（眠れる森の美女）、アリエル（人魚姫）、ベル（美女と野獣）、ジャスミン（アラジン）までにも変化があるが、ポカホンタスで大きく変わっている。女性が男性より強く、活躍するのである。その後もムーラン、ティアナ（プリンセスと魔法のキス）、ラプンツェル、メリダ、アナとエルサ、ヴァネロペ（シュガー・ラッシュ）では男女関係も様変わりし、結婚や恋愛がメインテーマではなくなる。最近作のヴァネロペはゲームの中の人物で、あくまで自分のしたいことを貫く少女だ。

3. 白雪姫とシンデレラ

白雪姫像の背景には1930年代のアメリカ社会がある。世界大恐慌（1929年）が起こり、経済界も衰退していく。女性は職場を男性に譲るよう求められ、プライベートな世界でも「何でもできる主婦像」を強調している。1931年には女性の雇用を禁止・制限する法律ができたが、実際には多くの女性が働き、組合運動もしていた。一方シンデレラが作られたのは1950年であり、戦後アメリカの女性像が反映した作品といえる。夢をかなえるという自己主張、自立性が見られる。

4. プリンセスから女性リーダーへ

1950年は、日本の女子の短大・大学進学率は1・2％であった。そのころの婦人週間の標語は「家庭や職場から封建性をなくしましょう、私達の権利と義務を知りましょう」となっていた。シンデレラ的女性像を広めようとしていた時期である。

さて今、メディアはどのような女性像を提供しているのだろうか。メディアにおけるバランスがとれ、固定観念にとらわれない女性の描写を求めて、世界で活躍する女性リーダーの姿を見ながら考えてみてほしい。（佐藤）

ワークシート（白雪姫とシンデレラの違い）

特　徴	白雪姫	シンデレラ
声の特徴	可愛い	美しい声
体型（身体）	小柄	大柄
ことば使い	おとなしい	元気
しぐさ	優しい、恥ずかしい	優しいが、活発
表情	明るい	明るく、活発
動物との関係	仲良し、手伝い	仲良し、手伝い
家事掃除をする様子	一生懸命やっている	楽しくなるようにやっているが、あまりしたくない
結婚観・人生観	私を愛して欲しい	権利を主張している
その他	家事が得意 理想の主婦像	夢をかなえる 自立性

第33回 こがねいパレット

『It's 笑タイム!! 笑いで吹き飛ばせ 暮らしのモヤモヤ』

第３３回こがねいパレットが令和元年１１月２４日（日）に市民会館萌え木ホールで開催されました。

林家まる子さんとカレー子さんによる母娘漫才を披露いただき、まる子さんの娘さんのこっちゃんにも登場いただきました。「笑いで吹き飛ばせ　暮らしのモヤモヤ」と銘打った漫才は、男女共同参画をはじめ、環境や子育て、世代間の違いといった身近な話題を扱ったものでした。まる子さん、カレー子さんの実体験も織り交ぜた楽しいお話には、そうした話題を考えるうえで大事にしたいエッセンスが散りばめられていました。会場は温かい笑いに包まれ、笑いと学びの時間となりました。

こがねいパレットは、公募の市民実行委員により企画・運営されています。

まる子さんとカレー子さんのお二人の漫才のテーマは多岐にわたります。けれど、そうした様々なテーマにおいて大事なことがあると、カレー子さんは言います。それは「リスペクト」、尊敬することです。

では、環境問題におけるリスペクトとはどういったことでしょうか。カレー子さんは、今や世界共通語となった言葉「もったいない」を例に挙げます。ケニアの環境副大臣を務めた女性、ワンガリ・マータイさんがノーベル賞を受賞されて以来、日本の「もったいない」という言葉は世界中で広く知られるようになりました。この言葉の意味するところこそ、まさにリスペクトであると言います。多くの物が十分に使用されないまま捨てられたり、まだ食べられる食物が捨てられるのを見て、私たちは「もったいない」と感じます。それは、物や食物へのリスペクトの気持ちがあるからです。マータイさんはそうしたリスペクトの気持ちに感動したのでしょう。

男女共同参画においても、リスペクトは欠かせません。相手が男性であれ女性であれ、子どもでも、誰であっても、その相手の良いところを見つけ尊重する事が何においても基本です。これは男女共同参画に限らず人として大事な事ですが、こうしたリスペクトを一人ひとりが心がければ、結局は男女共同参画に結びついていくということです。逆に、会話の中で「くせに」という言葉が出るようなら要注意です。「男のくせに」、「子どものくせに」といった言葉はともすればフランクな会話の中で使われやすい言葉かもしれません。けれどこの言葉が意味しているのはまがいもなく差別であると、お二人は言います。また、男女共同参画に理解の無い人がいる場合、私たちはその人の認識を変えようと、男女の平等を説明したり相手を批判したりするかもしれません。けれど、それでは相手は聞く耳を持ちません。大事なのは、そうした相手にも尊敬の気持ちを持つ事です。そうして初めて、その尊敬の中に男女共同参画の意を織り込んでいくことも出来ると言います。

全ての人を尊重・尊敬するのは誰にとっても難しい事です。けれど、身近なところから取り組んでいくのは大事です。環境問題でも男女共同参画でも、大事なのは「A・B・C」です。「当たり前のことを・馬鹿にしないで・ちゃんとやる」。環境問題でも男女共同参画でも、当然のこととして見過ごされがちな「リスペクト」が基本にあるという事です。

こがねいパレットに参加して

社会や暮らしの中の問題の話題を漫才という形式で聞くのは初めてで、とても新鮮でした。参加者の皆さんもリラックスされており、笑い声が響く楽しい会場でした。

男女共同参画におけるリスペクトのお話を聞き、男女共同参画も基本的には人間対人間の関係であることを改めて考えました。

「A・B・C」を大事に、相手を尊重する事を心がけたいと思います。

（須賀）

かたらい 2020 51号

『第5次男女共同参画行動計画　―平成30年度 推進状況調査の報告について―』

■計画の概要

市では、男女共同参画社会の実現のため、平成２９年３月に第５次男女共同参画行動計画を策定しました。

本計画は、計画期間を平成２９年度～令和２年度とし、基本理念を「人権尊重とワーク・ライフ・バランスを軸とする 男女共同参画の実現をめざして」と定めています。

この基本理念を具体的に推進していくため、基本目標１「人権が尊重され、多様性を認め合う社会をつくる」、基本目標２「ワーク・ライフ・バランスの実現した暮らしをめざす」、基本目標３「男女共同参画を積極的に推進する」と、３つの基本目標を掲げています。

■平成３０年度推進状況調査結果

基本目標１では６０事業、基本目標２では３５事業、基本目標３では１４事業、合計１０９事業の実施内容等について調査しています。

○具体的な取り組み

〈審議会等女性の参画推進〉

男女共同参画社会の実現のためには、女性が政策・方針決定の場へ参画することが重要です。

また、審議会等の委員構成は、男女に偏りがないように配慮することが必要です。改選時には、できるだけ女性委員の登用を図るなど、様々な分野へ女性の参画の促進に努めています（表１）

〈男女共同参画情報誌「かたらい」発行〉

男女共同参画施策の推進のため、市民編集委員制を導入し、情報誌「かたらい」を発行しています。

平成３０年９月の第４８号は「かたらい創刊３０周年記念号」として、平成３１年３月の第４９号では特別企画「ライフコースって何だろう？」を発行しました。

今後も、市民に男女共同参画に関する情報を発信し、意識啓発を図っていきます。

〈こがねいパレット〉

男女共同参画社会実現のための啓発事業として、講演会等を市民実行委員が企画、運営しています。

平成３０年１１月１１日に「フィンランド流　自分らしく生きるヒント」をテーマとした講演会を開催し、こがねいパレットに賛同する市民団体の紹介・展示等を行いました。

「こがねいパレット」は、「いろんな色を持つ、いろんな人たちが自分の色を大切にして、出会い、交流し、それぞれの色を認め合い、ときには、いくつかの色がまざりあって、新しい色を織りなしながら、誰もが楽しく幸せに暮らせる豊かな社会をつくりだそう」という願いが込められています。

■男女平等推進審議会からの提言

令和２年１月２２日に、市の附属機関である男女平等推進審議会から、本計画の推進等についての提言をいただきました。

「提言書に記載されている意見（一部抜粋）」

▽平成３０年度実績に対する評価及び報告書について

▽今後の事業評価と進捗管理について

■その他

報告書および提言書は、情報公開コーナー（市役所第二庁舎６階）、図書館本館、企画政策課男女共同参画室（市役所本庁舎２階）および市ホームページで閲覧できます。

（表１）　議会・行政委員会等女性の参画率

議会・行政委員会等 ＼ 人数等	小金井市 ※平成３１年４月１日現在				多摩２６市 ※平成３１年４月１日現在				東京都 ※平成２９年４月１日現在 ※議員数は平成３０年６月１日現在 ※管理職者数は平成３０年４月１日現在			
	機関数	総　数	女性の人数	女性比率	機関数	総　数	女性の人数	女性比率	機関数	総　数	女性の人数	女性比率
議　　会	－	24	10	41.7%	－	629	192	30.5%	－	125	36	28.8%
行政委員会（教育委員会ほか）	6	31	8	25.8%	197	1,070	176	16.4%	9	95	17	17.9%
附属機関（男女平等推進審議会ほか）	47	569	179	31.5%	1,113	14,277	3,992	28.0%	52	689	210	30.5%
その他審議会等（行財政改革市民会議ほか）	14	121	46	38.0%	869	12,842	4,908	38.2%	171	1,690	491	29.1%
管理職の在職状況	－	65	11	16.9%	－	2,714	491	18.1%	－	3,355	664	19.8%

「かたらい」について読者の方から意見・感想等を募集しています。

氏名（ふりがな）、ペンネーム（記載がない場合はイニシャルとします）、連絡先を明記し、直接、郵送またはファクスで企画政策課男女共同参画室へご提出ください。※一部抜粋して掲載させていただくことがあります。

〈提出先〉　〒184-8504 住所不要　企画政策課男女共同参画室　FAX：042-387-1224

編集後記

今回は子どもの視点ということを基礎に眺めました。親御さんなどに話を伺い、子どもたちがどの様に考えているか見みてきましたが、まだ不十分です。今後子どもたちの言葉が聞けたら嬉しいです。

（佐藤百合子）

産後、今後の働き方を考え続け、ついに6年近くいた会社を退職しました。しばらく就職せずに自力で頑張ってみようと思います。退職後、税金に対する意識が会社員時代とは比べものにならない程アップしました…。息子が成人する頃、この国はどうなっているのだろう、そして自分の老後が結構こわいです。

（佐々木成美）

市民編集委員として、男女共同参画だけでなく、市役所や行政と市民の関わり、市政そのものについても考える契機となりました。2年間ありがとうございました。

（田中映子）

名誉市民の毛里さんへの取材に同席させて頂けたことは、とても貴重な経験でした。「研究者を目指す女性へのアドバイス」は、それ以外の女性へも届く、力強い応援メッセージだと思います。

（須賀佳苗）

今号は、特別企画として、小金井市名誉市民の毛里和子さんに、研究者として活躍されている様子などを伺いました。また、特集では、「子どもの視点から男女共同参画を考えてみよう」をテーマに取材を行いました。

取材にご協力いただきました皆様に、御礼申し上げます。

（男女共同参画室）

「かたらい」は、公募による市民編集委員が、企画・取材・執筆を行っています。

古紙を配合しています。

小金井市男女共同参画情報誌『かたらい』第51号　2020年（令和２年）３月発行／企画・編集：かたらい編集委員会
発行：小金井市企画財政部企画政策課男女共同参画室　TEL：042-387-9853　FAX：042-387-1224
編集委員：佐藤百合子　佐々木成美　田中映子　須賀佳苗　男女共同参画室／監修：高橋道子（東京学芸大学名誉教授）